

令和元年度第1回竹原市地方創生推進会議 議事録

日時 令和元年9月24日(火) 18時～

場所 竹原市役所3階 第1・2委員会室

事務局	<p>皆さまにおかれましては大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻より少し早いですが関係者の皆さま全員お揃いになりましたので、ただいまから令和元年度第1回竹原市地方創生推進会議を開催いたしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>私は事務局の企画政策課長の沖本でございます。司会進行を務めさせていただきますと思ひますどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、市長の今榮からご挨拶を申し上げます。</p>
市長 事務局	<p>(挨拶)</p> <p>それでは、本日の会議の委員さんの出欠の報告をさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、この5名の委員の方につきましては、所要等により欠席となっております。また人事異動に伴いまして、昨年度から代わられた委員の方がいらっしゃいますのでご紹介をいたしたいと思ひます。</p>
会長	<p>ハローワーク竹原所長の善浪様です。前任の三浦様におかれましては当会副会長をお願いしておりましたので、善浪様にも引き続き副会長をお願いしたいと思ひます。</p> <p>それでは一言ご挨拶をお願いいたします。</p> <p>(委員自己紹介)</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは早速ではございますが議事に入りたいと思ひます。</p> <p>ここから先は伊藤会長にお任せいたしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>皆さんこんばんは。伊藤でございます。今市長のお話にありましたように、竹原市、大変厳しい状況です。一方では観光等明るい話題もあるのですが、人口の問題、高齢の問題と厳しい状況にあります。だからこそより効率的な行財政運営をしていく、その一環としてこの第2期の地方創生の取組の位置づけがあるのだろ</p>

事務局	<p>うと思います。</p> <p>今日は色々な資料がたくさんありますが、第1期の評価点検、それから国の新しい動きを踏まえながら、第2期に向けての大まかな方向付けや提示ができればと思っております。</p> <p>分野が非常に広いものですから、全ての事について議論していただくのは大変であろうかと思っておりますので、それぞれのお立場から一番関心のある分野、あるいは関係のある分野について、考えをお聞かせいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは議事次第に沿ってまず「1 新たな地方創生の取組について」事務局から資料の説明の方よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、説明させていただきます。</p> <p>まず、机の上の資料をご覧ください。</p> <p>竹原市地方創生推進会議委員の名簿のほか、会議次第、本日の配席表、本日の会議の論点、そして資料1、2、3、と続きます。</p> <p>今年度は、5年間の計画で策定した「竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年度となります。</p> <p>本日の会議では、国の地方創生に係る基本方針、そして竹原市で行ったこれまでの取組や、各目標、KPIの達成状況などを振り返るとともに、第2期「竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向け動いていく、というところまで説明させていただければと思っております。</p> <p>次に、「令和元年度第1回竹原市地方創生推進会議の論点」という資料をご覧ください。</p> <p>今回の会議の論点につきましては、国の第2期総合戦略へ向けた方向性や、地方創生に関連するこれまでの取組に対する、市内部の評価や振り返りについてご意見を頂いて、次の取組や対策につなげていきたい、と考えております。</p> <p>それでは、「資料1」をご覧ください。</p> <p>「資料1」は、「第2期 地方版総合戦略の策定について」とさせていただきます。</p> <p>まず趣旨は、人口減少問題の克服を目指す地方創生の取組を切れ目なく持続するため、第2期の「竹原市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する、ということです。</p> <p>背景としましては、本市は、世界に先駆けて我が国が直面する人口減少・少子高齢化という構造的課題に対し、国と地域が一体</p>
-----	--

となって対応することを目的とした国の地方創生に取り組む枠組みを踏まえ、「竹原市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、取組を進めてきましたが、今年度をもって計画期間が終了いたします。

国は、第1期（平成27年度～令和元年度）の5ヶ年で根付いた地方創生の意識や取組を2020年度（令和2年度）以降も継続することとし、現行の枠組みを維持しつつ、地方創生のより一層の充実・強化に取り組むため、今年度中に第2期総合戦略を策定することとしています。

竹原市の策定方針、3番です。

まず、第1期の施策効果を検証するとともに、人口ビジョンの時点修正を行い、その内容を踏まえます。

国が「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」で示した、「地方へのひと・資金の流れを強化する」や「新しい時代の流れを力にする」など新たな視点を踏まえます。

昨年度策定した第6次竹原市総合計画の内容との整合を図ります。

事業の効果検証を図るため、適切なKPIの設定を行います。

産官学金労言等が参画する地方創生推進本部会議などにおいて幅広く意見を聴取させていただきます。

4番としては、今後のスケジュールを掲載しております。

次に、「資料2」をご覧ください。

「まち・ひと・しごと創生基本方針2019について」という資料です。こちらの資料について、簡単に説明をします。この資料については、令和元年6月21日に閣議決定されております。

この資料については、国から出されたA4サイズ横の資料を上下で集約して印刷しており、ページ数が上下それぞれ右下に出ているので、ご注意をいただければと思います。

まず1ページ目から、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けてと題されていますが、半分から下の部分に「基本方針2019」の大まかな内容が示されています。

基本方針の枠組みとしては、第2期の基本的な考え方や、第2期の初年度に取り組む予定の主な事項などが取りまとめられています。

国のスケジュールにつきましては、策定日については冒頭で説明したとおり6月21日の段階で、12月中に第2期「総合戦略」

を策定することが明記されています。

また、その国が示した第2期「総合戦略」に基づき、地方公共団体は地方版総合戦略の策定をすることについて要請されております。

2ページ目をご覧ください。

「第2期の方向性」と題されている部分をご覧ください。

第1期の枠組みにおいて、第1期における「4つの基本目標と地方創生版三本の矢」が示されていますが、第2期においてはこの現行の4つの基本目標と地方創生版三本の矢の支援の枠組みを基本的に維持しつつ、必要な見直しを行うとされています。

必要な見直しを行ったポイントについては、これまでの取組の強化を図ることと、第2期における新たな視点を取り入れたことがあります。

2ページの第2期の枠組みにおける「4つの基本目標と地方創生版三本の矢」の部分をご覧ください。4つの基本目標に対して、大きく3点のポイントが示されています。

ポイントの1点目については、従来の枠組みを維持しつつ、必要な強化を行うこと、具体的には、「地方への新しいひとの流れをつくる」の取組の強化など2点あります。

ポイントの2点目については、「人材を育て活かす」、「誰もが活躍する地域社会をつくる」の観点を追加することです。

3点目については、新たな視点に重点を置いて施策を推進することです。

その第2期における新たな視点については3ページにお示してあります。

第2期においては、4つの基本目標に向けた取組を実施するに当たり、重点を置いて施策を推進する視点として6項目示してあります。

まずは1点目、地方へのひと・資金の流れを強化すること。

2点目は、新しい時代の流れを力にすること。

3点目は、人材を育て活かすこと。

4点目は、民間と協働すること。

5点目は、誰もが活躍できる地域社会をつくること。

6点目は、地域経営の視点で取り組むこと。

の、以上6項目となっています。

4ページ目をご覧ください。

新たな第2期における4つの基本目標が示されています。

2ページの第1期の4つの基本目標と対比しながら、また先ほど説明した基本目標を見直した4つのポイントを思いだしながら聞いていただければと思います。

2の「地方への新しいひとの流れをつくる」と4の「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」この二つについては継続となっています。

1の「地方にしごとをつくり安心して働けるようにする」については、それ以下に「これを支える人材を育て活かす」が新たに追加されています。

また、3の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、それ以下に「誰もが活躍できる地域社会をつくる」という言葉が追加されています。

このページについては、第2期の初年度における国の主な取組を基本目標の下、体系的に示しております。

1の目標については、高等学校・大学等における人材育成、2の目標では「関係人口」の創出・拡大、4の目標においてはSociety5.0の実現に向けた技術の活用、など新たな視点を踏まえた取組が含まれております。

5ページ以降におきましては、4ページで示された国の主な取組がそれぞれ記載されておりますが、具体的な内容については十分に情報が出されておらず、把握が出来ない部分もございますので、説明は省略させていただきます。

それでは、「資料3」をご覧ください。

竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証についてという題の資料です。

趣旨としましては、資料1と重複する部分もありますが、本市の人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを踏まえて、人口減少問題を克服し、地方創生を成し遂げるため、平成27年度から令和元年度までの5年間の目標と、施策の基本的方向等をまとめた、「竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定しております。

この度、この総合戦略の進捗状況を振り返り、実施した施策内容及びKPIについて検証を行います。

平成30年度末時点における目標の達成状況は、「ひとの創生」が60.0%、「しごとの創生」が50.0%、「まちの創生」が4

6.1%であり、全体では52.9%の目標達成率となっています。

人口減少の歯止めに対して最も重要で、総合戦略の中心的な取組と位置づけられた「ひとの創生」については、「しごとの創生」や「まちの創生」と比較して目標の達成率が高くなっているものの、基本目標の「転出超過数」については、現在値の320人が目標値の125人を大きく下回っています。下に取りまとめた表をつけており、「大まかな達成を含む」と書かせていただいています。こちらは、平成30年度末において、目標値に対して、9割以上達成しており、計画期間が終了する今年度末までに達成が見込まれるものを含んでおります。

まず、「ひとの創生」からご説明いたします。

結婚、妊娠、子育てに関する切れ目のない支援として、妊娠から出産、子育てに関するワンストップで気軽に相談できる体制としてネウボラを整備したほか、仕事と子育ての両立支援を図る観点から、病児保育環境の整備を行いました。

また、子供の健やかな成長を促し、質の高い教育・保育を提供するため、令和2年度開所に向けて新たなこども園整備を進めているところです。

市内の全小中学校のパソコンをタブレットに更新するとともに、全教室に電子黒板を配備するなどICT教育の強化に向けた環境整備を行いました。また、学力に課題がある児童を対象とした実態の把握そして課題の背景にある要因を分析し、個に焦点を当てた手立てを研究、実践するほか、イングリッシュキャンプを実施し、児童生徒の英語に対する興味関心を高めるよう取り組みました。

観光面では、首都圏へ本市の魅力を発信する観光プロモーション事業として、旅行会社と連携した個人及び団体向け旅行商品の企画・造成・販売、首都圏向け旅行雑誌（2019冬首都圏版）を通じた観光情報発信に取り組むとともに、ブランドショップTAU・まるごとHIROSHIMA博などで、本市のPR及び特産品の販売を実施いたしました。

このほか、大久野島を訪れる外国人の観光客をはじめとする観光客の市内周遊を促進するため、公共無料Wi-Fiの整備などを進めました。

また、発信の部分においては、市ホームページのデザインの変更を行うとともに、SNSやプレスリリースによる情報発信など

を積極的に行いました。続きまして、目標等についての検証です。

まず、基本目標についてですが、転出超過数は、年度によっては改善しておりますが、平成 30 年度は目標値だけでなく基準値（平成 26 年度実績値）も下回っている状況です。

各施策についての目標ですが、まずは結婚、妊娠、子育てに関する支援、実施したことにつきましては、概ね目標は達成している状況にあります。ファミリーサポートセンター登録については、利用会員は、保育所、児童クラブ、一時預かりなどのサービスで充足していると考えられ、その利用が伸びていないという振り返りです。

続きまして、学校教育の充実、学力の定着については、ICT の教育やALT の配置など様々な取組を行っているところですが、学力定着については、個の学力差が大きく、全体的な数値で見ると未達成となっている状況です。

情意面アンケート結果では、達成とさせていただいていますが、中学校においては、総合的な学習の時間や道徳科の授業などを通して、地域の人材をゲストティーチャーなどとして活用する頻度が少なく、目標値には至らなかったと考えます。

続きまして、観光の振興でございます。

入込観光客数及び観光消費額については、平成 30 年 7 月豪雨災害により夏季の観光客数及び観光消費額が減少し、かんぼの宿竹原が豪雨災害以降休業していることも影響を受けました。入込観光客の減少割合に比べ、観光消費額が微減に留まっている理由としましては、首都圏への観光プロモーションや旅行会社への営業活動など、様々なプロモーション事業の波及効果として、観光客の滞在時間が延び、1 人当たりの消費額が増加したことが挙げられます。

外国人観光客数についても、平成 30 年 7 月豪雨災害による JR 呉線の運休などの影響により減少したと考えられます。

情報発信力の強化については、平成 30 年 7 月豪雨災害の発生により、市への関心が高まったと思われるのですが、市ホームページへのアクセス件数やフォロワー数が急増しました。また、市が開催するイベント等について、継続して周知を行った結果、災害の後もフォロワーは増加している状況です。

続きまして、「しごとの創生」です。

これまでの取組状況としましては、空き店舗の増加による商店

街の空洞化が進んでいるという状況において、店舗を活用した創業を加速し賑わいの創出を図るため、空き店舗を改修して創業する者に対し財政支援を行うとともに、創業希望者に対して関係機関と連携し、セミナーや相談会の開催等を行いました。

企業誘致については、竹原工業・流通団地への閉鎖型植物工場の整備などに取り組み、その分譲率の向上（H27：75.2%→H31：84.0%）を図るとともに、新規就業者の確保を図りました。

農用地の集団化による担い手の経営規模を拡大し、また、農業次世代人材投資事業経営開始型補助金などの補助金を活用することにより、新規就農者の確保に努めました。

また、本市の農林水産物の高付加価値化や魅力ある商品の開発、販路拡大のため、竹原市郷土産業振興館を整備・運営を行うとともに、藻場の造成や自然石を利用した築磯の海底設置などにより水産資源の維持拡大を行いました。

続きまして、目標等についての検証です。

まずは基本目標からです。

新規就業者数の現在値が目標値を大きく上回るとともに、認定農業者数についてもH30年度は目標値と同数となっております。

各施策において、検証を行います。

産業の担い手の確保と雇用の場の拡充についてです。

ふるさと就職登録希望者数については、市内高校への登録の働きかけやツイッター・フェイスブックなどでの周知を行ってきましたが、十分な周知ができず、目標に至りませんでした。

続きまして、農林水産業の振興についてです。

6次産業化地産地消推進協議会・ご当地グルメ推進協議会による特産品開発の補助や竹原市郷土産業振興館における特産品開発を行い、順調に進捗しているものの、H30年度は目標に至りませんでした。

続きまして、商工業の振興です。

創業を目的とした空き店舗改修の費用助成や、新規創業者が融資を受け市内で開業した際に、利子相当額の1/2を助成するほか、商工会議所・ひろしま産業振興機構・金融機関等関係機関との連携強化に努めた結果、新規創業者数は目標を達成しております。

就職ガイダンスの実施や竹原工業・流通団地など、市内への企業誘致を行った結果、新規就業者数は目標を達成しております。

続きまして、「まちの創生」です。取組の状況は、住環境を充実

するため、利用可能な空き家の把握、再生、活用等に取り組むとともに、若い世代の子育て環境の充実も図るため、子育て世帯向け優良賃貸住宅を提供し、入居率増加のための支援拡充や情報発信に努めました。

少子高齢化が進展する中、まちの活力維持などを図るため、都市計画マスタープランの見直しや立地適正化計画の策定を行いました。また、コンパクトで個性ある市街地の形成をめざし、引き続き新開土地区画整理事業の推進等に取り組みました。

また、広島市及び呉市を中心とした連携中枢都市圏の取組への参画や広島空港周辺の近隣市町との連携施策の推進を行っております。

高齢者に対する地域包括ケアシステムの充実強化を図るため、認知症の早期診断・早期対応のための体制整備や高齢者生活支援のための体制を整備し、高齢者の日常生活に関連した多様な主体との連携を図りました。

このほか、市民が安心して医療を受けられるよう、医師会等と連携し、休日・夜間診療体制の充実に努めるほか、広島広域都市圏が実施する救急相談センター事業に参画し、緊急時の相談体制を整えました。

続きまして、目標等についての検証です。

まず、基本目標です。

H28年度にはいったん目標値を超えましたが、直近（H29年度）の数値は目標値を下回っている状況であります。

続きまして、各施策の検証を行います。

まず、住環境の充実と土地活用方策の検討です。

空き家バンクについては、市ホームページや広報紙を通じて広く周知したことから、新規登録件数の増加につながりました。

子育て世帯向け住宅については、入居者を増やすため、入居時敷金・家賃助成額を増額するとともに、積極的な広報活動等を行い、ほぼすべての住居に入居者を確保できている状況です。

続きまして、コンパクトな市街地整備の推進です。

区画整理事業については、関係地権者との合意形成に時間を要していること等から、目標どおりに進捗していませんが、H30に5年間の事業を延伸している状況です。

行政機能の集約については、行政機能が集中する公共施設ゾーンの再整備について、引き続き関係機関と協議・検討を行う必要

	<p>がある状況です。</p> <p>続きまして、広域的な交流・連携の推進です。</p> <p>広島市を連携中枢都市とする「広島広域都市圏」に加え、平成30年度からは新たに呉市を連携中枢都市とする「広島中央地域連携中枢都市圏」に参画し、幅広い分野で取組を進めて、市民サービスの向上を図っております。</p> <p>続きまして、安心していきいきと暮らせる環境の構築です。</p> <p>がん検診については、一部検診料の無料化など受診率向上に向けた体制整備や勧奨強化を図っております。著名人のがんへの罹患公表によって検診受診への意識が高まり受診率の向上となる場合がある一方で、災害の影響などにより受診率は減少しております。特に胃がん検診については、がん検診で胃カメラ検査を導入していないことなどから、目標どおりに進捗できていない状況であります。</p> <p>介護保険の要支援・要介護認定率の伸びは横ばいで推移しており、介護予防事業の効果が表れているといえます。</p> <p>障害者の地域生活支援拠点については、今後、医療的ケアが必要な者や行動障害を有する者などに専門的な対応を行える人材の育成や、緊急時の受け入れ・対応の体制を整えながら、相談支援事業所や障害福祉サービス事業所等の関係機関と市が連携し、体制を整えていく予定です。</p> <p>資料の説明につきましては、以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。色んな分野の話題がでてきました。最初は第2期に向けての取組方針、それから、2つ目が国の第2期の地方創生に向けての基本方針、3つ目が現在第1期の途中なのですが、評価点検ということで報告がありました。</p>
副会長	<p>まずそれぞれ何か質問、分かりにくい事や用語、あるいは表の見方についての質問等ございましたら何か。</p>
委員	<p>「しごとの創生」の中の新規就業者数、4ページの(2)の①にも新規就業者数があって5ページ目にもありますが、この違いがよくわからないのですが。</p> <p>また、この新規就業者数の内訳というのが何から拾っているのか知りたいと思いました。</p> <p>はい、まず4ページ目の新規就業者数につきましては、市の方でわかる範囲で調査をいたしまして、例えば企業への聞き取りですとかそういったことで把握した人数でございます。新たに市内</p>

	<p>に事業所を新設されましたりとか、ディスカウントストアですとか、出店されたり、そういったような場合にお聞きをしている状況で、今のところこの表にありますとおり、新規に仕事に就かれているかたということで掲載をさせていただいておまして、今のところは右肩上がりの状況ということになります。</p> <p>それから、4ページに載っております新規就業者数の217名と5ページに載っております新規就業者数で、4ページの217名の内訳がこの5ページの新規創業者数と新規就業者数とあわせたもの、という形で数字的にはなっております。</p>
会長	<p>ほかに今のような数字の見方、言葉の使い方等でなにか、どうぞ。</p>
委員	<p>すいません。(資料3)5ページのいちばん下の表のところなのですが、「支援ニーズの高い妊産婦への支援実施の割合」というのがあるのですが、支援ニーズの高い妊産婦とはどのような方のことかと思ひまして、教えてください。</p>
委員	<p>支援ニーズの高い妊産婦の方なのですが、これは例えば一人親の方とか、あとは極端に若い方もおられますし、あとは外国人の方、病気がちな方が対象です。平成30年度ですと、11人いらっしゃったということで、特に支援ニーズが高かったということで支援を強化したということでございます。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか？</p> <p>内容についてご意見等伺いできればと思いますが、それぞれの立場から特に「資料3」、第1期の評価点検、こういった指標で適切かどうか、それから基本目標と個別の施策についての進捗状況等、評価がこれで良いかどうか、ほかにも考えられるのではないかとといったご意見ご要望等お聞かせいただけたらと思いますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>それぞれ順番にお聞かせいただければと思いますが。</p> <p>私の方からは「しごとの創生」の方でそれぞれ達成、新規就業者数など達成はされているんですけども、「ひと」については転出される方のほうが多くなっており、目標未達となっております。それは仕事も増えてきている状況ではありますが、では、働きたい人のニーズに合った仕事がたくさんあるのか？というところがどうなのかというところがあります。今後やはり色々な働き方が考えられると思うのですが、そのような観点でいくとやはり、どのような仕事を求めているのかということをきちんとウォッチし</p>

	<p>て、今後の取組に進めていく必要があるのではないかと考えております。</p> <p>逆に言いますと、ふるさと就職登録者希望者数、この人数は延べ80名ですが、この人達が今後、本当に帰ってきて仕事をしていただける状況なのかどうか、今後しっかり追跡していく必要があるのと、登録された方はどのような仕事を求めて登録されているのか、それを状況判断をしていただきながら、きちんと皆さんが求めている仕事が竹原市の中にあり、しっかり働ける環境が整えられていけば、市外の方からも働きにこようという考え方が出てくるのではないかと考えております。</p> <p>大企業を誘致するというのは、非常に難しい問題なので、そこにはなかなかいかないと思いますが、今後 Society5.0 という形で情報時代の次の時代に入った形になります。よって、働き方改革など色々な働き方がどんどん出てくると思うので、それに乗り遅れないようにしっかりと環境の整備とかも竹原市が率先して早く進めていくような取組をしていただければと思います。</p> <p>今ご指摘がありました、ふるさと就職登録者希望者が、目標と実績値と随分乖離があるのですが、その理由は何かという点と、もう一つ先ほどご指摘ございましたように希望職種等のマッチング、情報等ちゃんと収集できているかどうかといったことにつきましてはどうでしょうか。</p>
会長	
委員	<p>お答えをいたします。</p> <p>このふるさと就職登録希望者数の目標値なのですが、転出される方、大体5年間の計画ですから、5年間で転出されるであろうといわれる方の概ね2割ぐらいを目標値として登録していただくように取組もうということで360名ということで登録したわけですけれども、実際高校から大学進学される方が大半でございまして、なかなか就職というところまでは結びついてないというようなことから登録される方が30年度までは少なかったという状況で、登録者が目標に達していないという状況にあると思っています。</p> <p>もちろんPR不足というところもあろうかと思いますが、そういうところはしっかり周知をするように頑張っていきたいと思っています。</p> <p>先程ご指摘いただきましたように、やはり市内に就職したいと思われるようなそういう仕事が少ないということもあるかもしれ</p>

	<p>ませんが、そういう情報が発信できてないということもあると思います。</p> <p>従って、今会長からありましたマッチングというの、就職を希望される方と、求められる企業とのミスマッチも起きていると思います。そういったところの、ふるさと就職登録者数にも繋がるのですが、そういった情報の発信というところが非常に弱かったと思っておりますので、そういったところがしっかりできるようにするにはどうしたらよいかということが、次期計画の課題ではないかと思っております。今いただきましたご意見を参考に取組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p> <p>会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次の方、先ほど国の第2期計画の中には高校大学における「地域の担い手育成」というような考えがでてきておりますが先程の資料説明を聞かれていかがでしょう。</p> <p>委員 (資料3) 学校教育の充実というところの資料をみますと、学力等がそのまま数字になって出ていて、これで評価していくというのはちょっと寂しいなという思いが正直しております。</p> <p>すべての資料についてそう感じましたが、目標に至らないといった表現でされていますけれども、市の中では、自分たちで設定された指標に対してそれが到達していないというような言い方になろうかと思っておりますけれども、例えば教育の分野で言いましても、竹原市ではICT等には力を入れてやっていただいておりますし、特別支援の教育におきましても、介助員の配置でありますとかそういったものにつきましては、他市町にはない非常に手厚い施策等を出し続けてずっとやってきていただいております。そういうことを見通し、展望をもって続けているのだという事をもっと、出していただけないのかなと思います。</p> <p>例えば自己内評価で隣町と数字を比べるような、明らかに竹原市がだんとつである、というものがあるかと思うんですね。</p> <p>もっとそういう面をだしていきたい、正直市内にいる保護者の方々も、竹原市の教育にはそれだけ力をいれていただいている、という認識が少ないです。大学もある東広島市ではなく、竹原市の方がもっといいところがあるんだよということを出していただくという、そういう何かあればいいなという気がしました。全体的に市の職員の皆さんが私たちはちゃんと仕事してますよという何かそういうことを一生懸命アピールされているような資料にし</p>
--	---

<p>会長 委員</p>	<p>か見えないというのが残念です。</p> <p>これは特になにか市の側でコメントありますでしょうか。</p> <p>はい、学校教育の充実ということで申し上げますと、今現在学力調査については、個の課題、それからクラスの課題、学校の課題というところが見えてまいりますので、この課題を校長もはじめ、分析してその改善計画を立てながら取組を進めることが一定に確立されていますので、引き続きこういった改善強化を加えながら継続していくものだろうと考えております。</p> <p>学力がすべてではない、ということもおっしゃりたかったのではないかと思いますが、我々も学力がすべてだとは思っていませんし、そうはいつでも数値で表せる唯一の指標でもありますので、数値が表せるものについてはしっかりと数値で結果を出していきたいという部分でこの学力調査の指標を出しております。</p> <p>その他についてはやはり学校教育と言いつつも学校だけでなく、家庭や地域、そういった方々の協力を得ながら教育全体の底上げがはかれるものだと思っております。今現在我々としても新たにコミュニティスクールといった制度を導入しておりますので、亀井校長のところもコミュニティスクール制度を導入する施行に入っておりますので、そういった地域とともにある学校づくりを目指す取組の中で、先程委員が言われたような学校の取組、また教育委員会の取組を、地域の方々に学校運営参画をしてもらう中で、その部分で理解をはかっていきたいと考えておりますので、この1期については、言い訳がましく聞こえるかもしれませんが、数値で表せる指標が唯一この部分であったということなので、第2期の部分については新たにそういった地域コミュニティと学校が絡んでいく部分で、その指標が見つけられればそういった部分をちょっと考えてみたいと思っております。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>ありがとうございます。国も評価点検をなさいます、という方針で、どうしても数値化できる表面的なところでしか、なかなか扱うことができないのですが、先程言われたような、質的な問題や普段の地道な取組も、できる限り広く知らせるような形で検証できればと思いました。</p> <p>次の方いかがでしょうか。</p> <p>失礼します。何点か気づきをお話させてください。</p> <p>先程、「指標が偏ってしまうといい部分がクローズアップされないというところが残念だ」といわれた先ほどの意見に同感です。</p>

そして、なぜその指標に至ってないのかという分析を多角的にやってみないと、数字そのものの統計的なデメリットがあろうかと思えます。

例えば中学校から市外に生徒が出ていくといった傾向にある中で、学力の全体的な数値だけではかれるのかどうかということもありますし、どういった力が身につけているが、どういった力がついていないのかといった細やかな分析が必要だと思いました。

次に、高等学校に係る部分で何点かお話をさせてください。観光に係る部分に「インバウンド」という用語が出てきます。例えば高等学校では「海外姉妹校」を結んでいます。そういうことをぜひ活用していただきたいと思えますし、ただインターネットで発信するのではなくて、どういったことが竹原で材料として使えるのかということも、少しアンテナを伸ばしていただいてアプローチしていただければ、我々もなんとかして活動を地域の活性化に繋げられないかという思いを持っていますので、活用していただければと思っています。

また、資料の高校教育の充実のところ、地域学習という部分がでてきております。「地域を知る」というところですか、資料の2ででてきましたけれども、本校でも地域に関するより深い学びを進めています。今年でいうと「豪雨災害」にかかわる調査であるとか、あるいは地域の人口の増加にかかわる課題についてもっと掘り下げていこうというような流れで、今までの「調べ学習」から「探究学習」へと移行しております。そういった高校の学習の中身の部分にもアンテナを伸ばしていただいて、点を線でつなげていくことで、それぞれの取組も質が高まるということがあるのではないかと思います。

それから、最後に地域を支える人材育成に係ってですが、先日の新聞発表でご存じのように竹原高校の募集定員が2クラスになりました。今後の高等学校と地域の活性化において非常に厳しい状況にあるということ、地域の方が深刻に受け止めていただきたいと思っています。当然学校の努力不足もあります。しかし、竹原高校は在籍者のほとんどが地元の生徒であり、先程の地域単位の生徒の進学状況のように多くの生徒が市外に出ている中で、やはり地域の公立の中高等学校がスタンダードとなり、生徒が進学していくことは地域にとって非常に大事だと改めて感じています。

	<p>資料の中に、「継続は力」という言葉がありました。本校の校訓も「継続は力なり」ということで、この取組をただ続けていくだけではなく、しっかり方策を振り返って分析し、小学校、中学校、高等学校そして市の関係者の皆さんと連携を密にし、地域の皆さん、企業の皆さんと繋がった体制作りなど、これからもっとできることがあるのではないかと感じているところです。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。2クラスというのは非常に危機的な状況であろうと思います。</p>
	<p>今のお話は地域で支える体制作りということで、ご意見として受け承りたいと思います。</p>
副会長	<p>次の方、特になにか、よろしいですか。</p>
	<p>先ほどのご意見でもありました、職種のミスマッチですね、非常に大きくて、特に医療とか福祉、建設関係、人手不足が深刻化しているのですが、企業誘致などがあれば大きい雇用が生まれるのでしょうか、現在の限られた産業とか職種の中で考えたら、働く環境とか労働条件などを見直すとか働きやすさの追求が不可欠なのではないかと思っています。そういうことも含めてこの会議でいい知恵ができればいいなと思っているのですが。</p>
会長 委員	<p>それでは、次の方、お願いします。</p>
	<p>読ませていただいて、一市民としての疑問というか個人的関心でもあるのですが、最近引きこもりですとか不登校とか全国的によく聞くとおもうのですが、2020年の第2期に、5番の「誰でも活躍できる地域社会を作る」ということの中に、ぜひ引きこもりの方ですとか、不登校の方たちに対しての何か施策、というか手助けの何かを組み込んでいただければな、と少し思いました。</p> <p>身の周りにも、私は小梨に住んでいるのですが、小梨にもおられますし、忠海で今産業振興課の仕事をしていますけれども、その周辺にもやはり引きこもりの方がいらっしゃるということを聞いたりして、その方達がまた竹原で仕事をしたりとか、竹原市の人材として活躍できる方達だろうなと思うので、その方達のサポートといいますかそういうものがあればもっと魅力的な町になっていくのではないかなと思いました。以上です。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。</p>
	<p>これもご意見としてお伺いするという事でよろしいですか。</p>
委員	<p>では、次の方、お願いします。</p> <p>失礼します。観光の振興の観点からお話させていただきたいと</p>

<p>会長 委員</p>	<p>思います。</p> <p>昨年度は豪雨災害によりこういう残念な結果になっておりますけれども、今年度は感覚的には以前の正常に戻ってきているのかなという感覚はあります。</p> <p>ただ、かんぼの宿竹原、こちらの方の閉鎖も正式に発表されておりまして、宿泊客が観光消費額に及ぼす影響というのは大きいとは思っておりますけれども、この辺がちょっと注視したいところがあります。ただ、JR西日本がまずシームレスのアプリなど開発しておりまして、今年度10月からだと思いますけれども、広島県の東部の方で実証実験をやるということで、シームレスな移動が期待できるのかなというところもありますし、さらに来年度はJR西日本のデスティネーションキャンペーンがございますので、こちらで乗り遅れないように瀬戸内を中心に展開されると思いますので、その辺りをしっかり続けていっていただきたいなと思っております。</p> <p>竹原市の観光のコンテンツというのは非常にいいものがあると思いますので、それをシームレスに繋げていくと、国の政策からも乗っかりやすいと思いますので、ぜひともその辺りを期待しております。以上です。</p> <p>ありがとうございます。それでは次の方、お願いします。</p> <p>子育ての観点からということで、ネウボラが新しくできて、出産前後の方が保健センターに行ったらその場所があるというのは本当に心強いだらうな、というのと共に、出産前後を終えてからもしばらく特に、未就園児3歳未満のお子さんを持つお母さんたち、ご家族の方達は、色々大変な中で、育児にあたっている現実を感じています。</p> <p>それで先程もお話があったのですが、シングルの方であったり病弱な方であったり、実家がこちらではなくて通勤族の方も「アウェイ育児」をしている方だったり、発達障害のあるお子さんと向き合っている方だったりとか、やはり不安がすごく強い方達に、本当に安心して育児を楽しんでもらえる町になればいいなという思いがあります。</p> <p>具体的にどんなふうに支援ができるのだろうと考えた時に、やはり解り易くその方達が「竹原市って優しいな」と思えるような何かあってないかなと考えると、まずは産院が無いというのは一つ大きくて、妊娠期からの子育て、ということで妊婦さんに優しい</p>
------------------	--

町と思うのと、産院がないから産院まで通う手段を助けるようなタクシーだったり、出産の時に無料タクシーのチケットがあったり、あとは実家がこちらではない方、アウェイ育児の方、やはり車が無いとどこへもいけないかたもいらっしやるので、そういう方達も安心して竹原市は優しい町だなと、例えば電車のチケット配布とか、交通手段ももう少し何か工夫できないかなという思いがどうしてもあります。

私は育ったところがすごく便利なところだったので、ここに来た時に不安だったのがそれ一つだったので、何か解り易く「応援してるよ」というのを感じられるようなことがないかなと思ったり、あとは3歳未満のお子さん特に保育料も高かったり、今度10月から無償化が始まるかと思うのですが、3歳未満のお子さんに関してはまだ無償化になってないということで、例えば一時預かりを無料にするとか思い切ってどういうシステムが良いかわからないですけども、本当に気軽にちょっとした時に預けられるような支援ができたらいいなと思ったり、あとは家で本当に引きこもっている方、本当に寂しい思いをしてる方が一番心配かと思うのですが、そういう方がちょっとでも外にでられるような支援を何かできないかなと思った時に、「ここに行ったらこのプレゼントももらえるよ」という、プレゼントチケットを保健センターで産前の時一緒に渡して、この場所に行ったらプレゼントがもらえるから行ってごらん、とか、そうやっている町があると聞いたのですが、何か外に出て友達を作ろうと思えばできるような解り易い支援、プレゼントチケットだったり無料チケットだったり、そういうものを、不安が大きいと感じる育児をしている方達に何かできたらいいなという思いがあります。以上です。

これは特に市の方からコメントかなにか。

子育てに関して色々ご提案いただきました。言われたように産院が無いということで、中々厳しい問題があるのですけれども、子育て施策について子育て世代に定着していただくことでさまざまな施策をしています。

「子ども子育て支援事業計画」というのがあるんですけれども、5年間の計画が今年度で終わりました、来年度からまた5年間の第2期の計画を作成中でありますので色んなご意見も踏まえて、事前にアンケート等も取っておりますのでそういったことも踏まえて、子育て支援策事業計画の中に盛り込んで充実をさせていき

会長
委員

<p>会長</p>	<p>たいと思います。</p> <p>この総合戦略についても第2期についても連携しながら、子育て施策の充実につとめていきたいと思っております。以上です。</p> <p>ありがとうございます。今日特に第1期の成果評価点検についてご意見をお伺いしたのですけれども、今後これを踏まえて第2期へ向けての人口ビジョンや、たたき台等が11月12月にでてくるということですので、そのたたき台に向けて何か特にこういった点を入れてほしい、こういった視点が必要ではないかという気付きの点ありましたらご意見をお伺いできればと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p> <p>会長</p>	<p>教育の視点からお話させていただきますと、これまでずっと人が外へ出ていかないために、残るよという意識が強くて、同属教育で、とか郷土愛がどうこうとかということが数値に現れたりとか、そういうことを言っておりましたけれども、引き留めれば引き留めるほど外に出ていきたがるというのは、どこの家でも子どもはそうじゃないかと思えます。むしろ本当に将来竹原市を担っていく、人を創生していくのであれば、やる気のある子どもたちといますか、将来地域のために貢献してやろう、とかそういう意欲を持った子はいるんですよね。本当にクラスの中にいます。そういう子たちへの支援といますか、特にグローバル、というふうな言い方どこもやっていて本校も英語教育をすごくやっていますけれどもその中で子どもたちも中には将来海外で仕事をしたいとか、外へ行きたいという思いを持っている子もいます。</p> <p>そういった面でぜひ、出ていかないではなくて、いったん出ていく、むしろ背中を押して竹原は出ていく子を応援するよ、言い換えると、「その後、帰ってきてしっかりリーダーシップを取ってくれ」というような施策や支援を生み出していただけると我々も子どもたちを励ましやすいです。</p> <p>教育者としてしっかりと生徒児童を励まし支援していきたいと思えますので、そのような視点を「ひとの創生」の中で語れるようなものがでてきたらいいなと思っております。ぜひお願いしたいと思えます。</p> <p>ありがとうございます。ほかにどなたかお気付きの点、これだけは言っておきたいということ何かありませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、今日色々なご意見それぞれのご立場から伺うことができ</p>

事務局	<p>ました。こういった議論を次の取り纏め案を反映させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは事務局へお返しします。</p> <p>今皆さま方におかれましては様々なご意見をいただき、どうもありがとうございました。それでは閉会の前に本日の会議を踏まえまして市長からひと言ありましたらお願いいたします。</p>
市長 事務局	<p>(挨拶)</p> <p>次回会議の時間日程につきましては、先程会長からもありましたが、11月予定をしております。また皆さまがたには日程調整をさせていただきまして、決まり次第お知らせをさせていただこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして令和元年度第1回竹原市地方創生推進会議を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。</p>